

地球科学輻合ゼミナール

(2012年度 後期 第11回)のご案内

桜島火山におけるフィールド実験 —火山噴火予知をめざして—

井口正人

防災研究所 火山活動研究センター

1955年10月13日の桜島南岳の爆発はその後50年以上にわたる噴火活動の始まりであった。その5年後に設置された防災研究所附属桜島火山観測所は南岳の爆発の予知研究のために社会的要請に基づくものである。繰り返される爆発に対して予測可能かどうかはまさにフィールドにおける予測実験である。地震計、傾斜計、伸縮計、GPS、赤外線映像装置などの様々な観測機器を駆使し、火山噴火の予知研究を行ってきた歴史とその成果について紹介する。一方、南岳の爆発活動は今世紀に入り低下に向かったが、代わって2006年からはその東山腹の昭和火口において噴火活動がはじまり、年間爆発回数は1000回に達しており、今後のさらなる活動の活発化が予想される。今後の予測とその難しさについても触れたい。

1月16日(水) 午後4:30~午後6:00

場所: 理学研究科6号館 303号室